

# 第1章 業務の概況

## 庶 務 課

この第9集は、昭和31年における試験検査の成績及び各種診断用菌液、検査用培地等の製造及び消流の状況、その他第8集編集以後最近に至るまでの間における所務の概要並びに所員の手に成れる各種の調査研究報文27篇を記録し、また、32年11月上旬来道された来国コロンビア大学細菌学教授C・E・ドルマン博士の北大農学部講堂における「ボトリヌスE型菌中毒について」の講演の要旨を収録した。

### 1 会 議

全国地方衛生研究所協議会第7回総会が31年10月18、19日愛知県文化会館で開催されたので中村所長及び館庶務係長が出席した。議題は7件、研究発表は15件であり、当所からは衛生検査技師法案に関する件を提案した。

32年2月19、20の両日厚生省の主催で昭和31年度地方衛生研究所長会議が開催された。当所からは中村所長、小野庶務課長、小山環境衛生学科長及び山本主事の4名が出席したが、付議の議題は、本省から12件、国立公衆衛生院、国立予研等の付属機関から13件、各地研から18件提案され、当所からは衛生検査技術者の身分法制定促進方について提案した。この外、藤岡原子力委員の原子力についての特別講演及び国立予研福見細菌部長の最近のインフルエンザの流行について、国立衛生試験所川城食品部長の食品の添加物について、また、福井衛研の放射能の測定について及び秋田衛研のボトリヌス中毒についての研究発表があつた。

32年4月12日道総合開発企画本部の主催で札幌市産業会館において、道関係試験研究機関連絡協議会を開催されたので中村所長及び松崎技師の2名が出席した。議件は、企画本部から提案された昭和32年度事業の運営方針について及び原子力平和研究推進についての2件であるが、その後5月24日には労働会館で、同30日及び8月16日には当所会議室で全体会議を、また、同21日及び9月2日、10月15日及び11月18日には当所会議室で、9月3日には社会福祉会館でおのおの小委員会を開催し、この間これら会議の決議に基き6月15日、9月6日及び10月16日の3回にわたり研究職給与改定について関係方面に要望書を提出し、また、11月19日には代表委員より口頭をもつて同様の趣旨を陳情した。

32年7月5、6、7の3日間秋田県衛生研究所の主催で同所内において、東北北海道地区衛研協議会第13回総会があつたので中村所長及び館主事が出席した。各所からの提出議題は4件であつたが、当所から提出した衛生検査技師法案の経過については、中村所長から日本衛生検査協会長の立場において状況を報告した。

32年10月25日大阪市立衛生研究所の主催で第8回全国地研協議会が同所で開催されたので中村所長、小野庶務課長及び館主事の3名が出席し、当所からは衛生検査技師法案の推進運動及び放射能同位元素測定に伴う設備の充実について提案したが、各所提出の議題は6件であつた。

## 2 職員研修会

職員研修会は、部内における職員の調査研究等の発表に便し、また、相互研鑽の場として相当の効果を収めているが、前号に掲載した以後の開催状況は次のとおりである。

第51回 昭和31年8月16日

- 1 腐敗アミンのコリエマテラーゼ阻害作用と摘出腸管に対する作用 岩本技師, 中谷技師
- 2 血液の低温保存に関する諸問題 中川勇技師

第52回 昭和31年9月21日

- 1 市販ジュース類の検査成績について 山口技師
- 2 北海道の野鼠に見られるトゲダニ類について 大野技師
- 3 温度並びに細菌の尿管消化に及ぼす影響について 小山技師

第53回 昭和31年11月30日

- 1 新しい梅毒検査法について 中川勇技師
- 2 浸透性殺虫剤のリングにおける残留試験について 多賀技師

第54回 昭和31年12月19日

- 1 細菌学の領域における酸化還元電位について附 ボトリヌスE型菌の発育と電位 安藤芳明技師
- 2 穀類等のカビ害について 中根技師

第55回 昭和32年3月26日

- 1 パラチオン撒布の河水及び飲料水に及ぼす影響とその除去について 岩本技師
- 2 微生物によるアルギン酸の分解 井上技師
- 3 島松地区におけるツツガ虫の年間消長について 長谷川技師
- 4 北海道におけるノミ類について 大野技師
- 5 水産物のビタミンE 内藤技師
- 6 魚類におけるボトリヌスE型菌の毒素産生に関する研究(第1報) 飯田技師
- 7 根釧原野開拓農家の食生活に関する調査 川端技師
- 8 冬期貯蔵中の菜類のカロチンの変化 福士技師

第56回 昭和32年4月25日

- 1 細菌学会出席報告 中村所長, 飯田技師
- 2 日本薬学会出席報告 岩本技師
- 3 衛生動物学会出席報告 大野技師

第57回 昭和32年6月24日

- 1 最近におけるボトリヌス研究の方向について 飯田技師
- 2 放射能による食品貯蔵について 安藤芳明技師

第58回 昭和32年7月23日

- 1 油やけとその防止について 内藤技師
- 2 市販カキの汚染度とその保存性についての一考案 小笠原技師

第59回 昭和32年8月23日

- 1 札幌におけるウサギの正常体温について 岩本技師
- 2 味噌のビタミンAの強化について 福士技師

第60回 昭和32年9月25日

- 1 札幌市における下水道並びに河川水の汚染度について 遠藤技師
- 2 インフルエンザウイルスの変異について 桜田技師

第61回 昭和32年10月17日

- 1 食塩細菌について 中根技師
- 2 水産物と Tocop 内藤技師

第62回 昭和32年11月25日

- 1 昭和32年北海道に流行したインフルエンザAアジア57ウイルスに関する研究 桜田技師
- 2 エヒノコックス症の血清診断に関する研究 中川勇技師
- 3 最近のボトリヌス中毒発生例について 唐島田技師
- 4 穀類, 野菜, 果実に残留する農薬について 多賀技師
- 5 根釧地区開拓農家の食生活改善に関する調査研究 内藤技師
- 6 北海道における蚊の分布について 服部技師
- 7 石狩川水質調査 中村俊男技師
- 8 尿尿浄化槽汚水調査 中村俊男技師
- 9 放射能による食品の汚染について 安藤芳明技師
- 10 桧山, 渡島地方の恙虫相 大野技師

第63回 昭和32年12月23日

- 1 微量の銅の撰積的試薬 Cuproin 族について 三井技術補
- 2 トランキライーザについて 岩本技師

### 3 職員組織及び人事異動

本所における職員の定数は、従来は56人(吏員38, その他18)であつたが、32年3月から吏員(防疫監吏)1人を増員されたので総数57人となつた。この外、定員外の準職員及び本庁から

職員配置定員及び現員

区 分	人 員	配 置 定 員			現 員					
		吏 員	その他	計	吏 員	その他	常 勤 兼務者	準職員	臨 時 職 員	計
所 長		1	—	1	1	—	—	—	—	1
庶 務 課		4	10	14	4	11	—	3	1	19
疫 学 科		10	3	13	9	3	—	4	3	19
薬 学 科		5	—	5	5	—	1	1	—	7
食 品 化 学 科		6	2	8	6	2	—	1	1	10
環 境 衛 生 学 科		7	—	7	7	—	1	1	1	10
食 糧 栄 養 学 科		6	3	9	6	2	—	1	—	9
合 計		39	18	57	38	18	2	11	6	75

註 現員中「常勤兼務者」は衛生部からの兼務者であり、また「準職員」及び「臨時職員」はいずれも定員外のものである。

の兼勤者等があり、昭和32年12月末日現在における分課別の配置定員及び現員は前表のとおりである。

昭和30年9月1日食糧栄養研究所の統合吸収によつて新設された食糧栄養学科の科長はかねて入選中であつたが、31年8月1日付をもつて東京大学農学部助手勤務の農学博士内藤孝次が技術吏員に任命され、同科の初代科長を命ぜられた。

#### 4 衛生検査技術者の指導養成

衛生検査技術者の資格認定制度が今なお実現を見ず、また、これら技術者の指導養成を目的とする公的機関も存在しない現状においては、この欠陥を補うための技術者の指導養成は衛研に課せられた使命の重要な部面の一つとなつている観があり、事実また保健所及び病院等における試験検査業務の円滑なる運営を期待する上からもその必要を痛感されるので、当所においては、本庁の方針に従い早くからこれを実施しているが、初心者者の養成については、昭和28年以来、高等学校卒業以上の学歴を有する者に対し1年間細菌学、血清学、臨床病理及び水質検査方法等について理論の大意及び実技を授け、また、技術者の再教育については、本庁或は保健所、その他の委託を受けて随時希望の事項について指導を行い、或は当所員を保健所等に派遣して実地指導を行つているが、昭和31年度における新規養成人員は12名、再教育人員は29名、また、32年度における新規養成は9名、再教育は52名であつて、新規養成のものはおおむね委託先の保健所等に就職している。

#### 5 予算及び決算

昭和32年度における歳出予算及びその特定財源の見積額並びに31年度における歳入歳出決算は次のとおりであつて、前年度に比し32年度歳出予算にあつては2,348,500円、また、31年度歳出決算にあつては2,532,977円、同歳入にあつては、調定額において654,432円、収入済額において977,778円のいずれも増加を示している。

昭和32年度歳出予算及び特定財源見込額

費 目	事業名	本所費	疫 学 検査費	細 菌 検査費	化 学 検査費	食生活 改善費	診断用製 剤製造費	調 査 研究費	放射能 調査費	合 計
旅 費		600,000	575,700	232,000	663,000	111,000	190,000	338,100	80,500	2,790,300
職 員 手 当		464,000	—	—	—	—	—	—	—	464,000
賃 金		916,400	669,800	—	486,100	202,000	204,000	12,800	25,000	2,516,100
消 耗 品 費		755,700	1,135,000	458,000	1,679,000	144,000	949,800	522,000	51,000	5,694,500
燃 料 費		645,500	—	—	—	—	—	—	—	645,500
食 糧 費		55,000	32,000	35,000	32,000	—	40,000	40,000	—	194,000
印 刷 製 本 費		400,000	—	—	—	—	—	—	—	400,000
光 熱 水 費		570,000	—	—	—	—	—	—	—	570,000
通 信 運 搬 費		205,000	—	—	—	—	23,000	7,600	10,000	245,600
修 繕 料		495,000	150,000	50,000	72,000	13,000	30,000	—	—	810,000
備 品 費		100,000	192,000	1,241,000	470,000	30,000	—	90,000	703,000	2,826,000
原 材 料 費		—	85,000	125,000	55,000	—	40,000	50,000	3,000	358,000
借 料 及 び 損 料		29,600	—	—	—	—	11,500	—	—	41,100
合 計		5,236,200	2,839,500	2,141,000	3,457,100	500,000	1,476,800	1,032,000	872,500	17,555,100
特 定 財 源		(373,200) 30,000	3,155,000	1,070,500	1,472,500	60,000	1,846,000	—	972,000	(373,200) 8,606,500

昭和 31 年度 歳 出 決 算

事業名 費 目	本所費	疫 学 査 査 費	細 菌 査 査 費	化 学 査 査 費	食生活 改善費	診断用製 剤製造費	調 査 研 究 費	合 計
旅 費	754,800	461,780	231,720	832,745	203,320	179,930	100,000	2,764,295
職 員 手 当	463,984	—	—	—	—	—	—	463,984
賃 金	394,051	567,098	—	505,017	329,139	202,462	—	1,997,767
消 耗 品 費	838,792	962,867	493,000	1,845,772	263,407	836,883	349,973	5,590,694
燃 料 費	599,982	—	—	—	—	—	—	599,982
食 糧 費	108,667	31,930	—	30,354	31,830	15,184	—	217,965
印 刷 製 本 費	397,955	—	—	—	—	—	—	397,955
光 熱 水 費	567,710	86,910	—	—	—	—	—	654,620
通 信 運 搬 費	187,379	—	—	—	—	24,000	—	211,379
修 繕 料	515,373	119,394	49,999	181,996	23,930	35,749	—	926,441
備 品 費	398,610	192,275	400,000	702,120	55,000	49,960	—	1,797,965
原 材 料 費	—	54,642	124,908	34,950	—	—	49,700	264,198
借 料 及 び 損 料	30,186	—	—	—	—	—	—	30,186
合 計	5,257,489	2,476,894	1,299,627	4,132,954	906,626	1,344,168	499,673	15,917,431

昭和 31 年度 歳 入 決 算

収 入 科 目	調 定 額	収 入 済 額	収 入 未 済 額
普 通 財 産 収 入	47,229	47,229	0
化 学 査 査 手 数 料	1,264,030	1,264,030	0
疫 学 査 査 手 数 料	2,999,720	2,998,900	820
薬 品 売 払 代 金	1,434,860	1,434,860	0
不 用 品 売 払 代 金	20,900	20,900	0
雑 入	324,166	324,166	0
恩 給 納 付 金	160,159	160,159	0
合 計	6,251,064	6,250,244	820

6 来訪者及び各種会合

事業の進展を物語る証左の一つともいおうか、近年当所における設備及び業績等を視察するため来訪される諸彦の漸く多きを加えたことは、欣懐かつ光栄とするところであり、これによつて一層所員の職務上における自覚、発奮を促され、業務の進歩改善に資せられることの少くないことは、望外の収穫といわなければならない。ここに 31 年 7 月以降におけるおもな来訪者の芳名を掲げて深く敬意を表するとともに、今後の来訪者についても逐次記録して謝意を表することとする。

昭和 31 年 7 月 19 日 千葉医大川喜田教授、徳島大学吉田教授、岡山大学村上教授及び東京大学緒方教授の 4 氏は、北大で開催された大学図書館会議に出席のため来札の際来所。

8 月 30 日 東大伝染病研究所田島教授は、ブルセラ病対策打合のため来所。

9 月 30 日 厚生省業務局高部細菌製剤課長は、生物製剤業務打合のため来所。

昭和 32 年 6 月 4 日 千葉医大谷川久治教授は、札幌及び室蘭で採取した尿管検体の試験方法及び従来における氏の研究成果等について打合のため来所。

- 6月7日 国立東京第三病院小酒井望臨床病理部長は、日本衛生検査技術者協会北海道支部主催の技術者講習会において特別講演のため来札の際来訪。
- 6月12日 国立予研北岡ウイルス・リケツチャ部長は、日本脳炎に関する懇談会に出席のため来所。
- 6月17日 九州大学名誉教授操坦道氏は、当所視察のため来訪。
- 6月22日 科学技術庁官房長原田久、同技官渡辺有造の両氏は、衛研実態調査のため来所。
- 7月14日 弘前大学教授北昌栄太郎、同菊地寛、同水谷昇、東北大学教授高仲幹雄、北大教授安保寿、同山下次郎、同大林正士及び自衛隊札幌地区病院研究訓練部長近藤正次の8氏は、当所において開催の寄生虫衛生動物についての研究発表並びに意見交換のため来所。
- 7月22日 国立予研小島所長は、当所業務視察のため来所。
- 8月13日 東大病院薬局長野上教授及び厚生省北海道医務出張所技官三沢隆行の両氏は、病院製剤状況視察並びに打合のため来所。
- 8月30日 北大工学部教授坂本三郎、同理学部助教授西村雅吉、同医学部助教授三橋博、道立水産試験場技師駒木成、道立農業試験場技師奥村純一、同池大司、同岡部勇、北海道学芸大学助教授池畑昭、同中野嘉弘、札幌市水道局技師梶原義弘、札幌管区气象台技師三浦三郎、同泉原安吉及び北電第二工務部技師三上厚の13氏は、当所において開催の放射能研究談話会に出席のため来所。
- 9月30日 米国ミネソタ大学教授、WHO 顧問ボツシュ博士及び国立予研衛生工業部長洞沢勇の両氏は、環境衛生施設視察のため来札の際来訪。
- 11月8日 米国コロンビア大学細菌学教授ドルマン博士は、細菌性食中毒、特に当所のボトリヌス中毒研究状況視察のため夫人同伴、北大教授佐々木西二及び山田守英両氏の案内で来所。

## 疫 学 科

昭和31年は多忙な年であつた。一般の検査業務は件数において前年とほぼ同じ程度であり、検査の方法においても特に変わった点はない。

以下二、三の特筆すべき事件をあげて見よう。

### 1 厚岸町に発生した集団腸チフス

5月厚岸町に集団腸チフスの発生を見た。厚岸町は本道東部の太平洋に面した一漁港で、人口約1万8千、昔から「かき」の養殖の盛んなところである。ここに3月下旬頃から高熱のつづく不明の奇病が流行していたが、終戦後は腸チフスの発生が少なく、しかも当時全道的にインフルエンザが流行していたため医師も腸チフスを疑うには至らなかつた。5月上旬に至つて患者は激増し、5月17日衛生部及び当科の係員が現地におもむき、疫学調査及び細菌学的検査を行つた結果、集団腸チフスと決定された。その後も患者は引き続き発生し、また保菌者検索によつて32名が追加され、患者、保菌者合せて104名に達したが、6月23日に至つて一応終熄した。終戦後珍しい集団腸チフスの発生であつた。

### 2 ボトリヌスE型中毒の発生